

フェースブックの友達の皆様

私の神奈川新聞の掲載 我が人生です10回ずつまとめて読める サイドです一定の手続きしないと読めませんあくまでも版権は神奈川新聞さんですのでご承知下さい。掲載回数は 63 回 3ヶ月の予定です。



高橋弘さん登場

わが人生3月1日から

神奈川ゆかりの各界の著名人が、自らの道のりを振り返る連載「わが人生」は3月1日から、万葉俱楽部（くらぶ）代表取締役会長の高橋弘（たかはし・ひろし）さんが登場します。

(神奈川新聞から
お知らせ)

高橋さんは1935年、静岡県生まれ、小田原市在住。同県立三島南高校を卒業後、父が経営する酒販店勤務を経て、57年にアルプス写真を創業。60年に写真DPE事業の日本ジャンボーを設立。97年には万葉倶楽部（本社・小田原市）を開業し、都市型温浴レジャー施設の先駆となります。温浴施設は現在、県内に

「横浜みなどみらい 楽部」など3カ所、県外にも
6カ所と拡大しています。



社用車の側面に「写真のDPEはジャンボープリントで」と書いた布を取り付け、ジャンボーサイズをアピール =1960年ごろ

1960年、25歳の私は
静岡県熱海市に「日本ジャンボー株式会社」を設立。
米国製の大型自動焼き付け機を導入し、写真プリントの大量処理を実現しました。社名の「ジャンボー」は、この機械がプリントする写真のサイズに由来します。

当時日本で一般的だった
サイズは長辺12・7^{ヤード}、短
辺8・9^{ヤード}の手札判と、手札
の倍のキャビネ判、手札の半分の名刺判の3種類でした。特に親しまれていたのが名刺判です。大きさは
辺6・5^{ヤード}程度で、値段も
15円と最も手頃でした。

短辺8・2^{ヤード}でした。しかし
価格は機械による大量処理で、名刺判より5円安い
10円で提供できました。

つまり、「サイズは大きく、価格は安い」のです。
このことを前面にアピールしようと、社名に「ジャンボー」を使ったわけです。
社名だけでなく、わが社独

社名に思いを込めて

一が黄色いゾウをマスコットキャラクターとするのは
そうした理由です。「ジャンボジエット」の愛称を持
つ米国ボーリング社の大型旅客機「747」が就航す
るのは1970年ですか

きく日本一。だったら「日本ジャンボー」だ。
そして、家業の酒販店と
の「足のわらじを脱ごうと
決意しました。私が子どもたちから「ゆくゆくは長
男のおまえに家業を任せること」と言っていた父も私
が写真業を大きくしているのを見てきたからでしょ

う。「よし、そんなにやりたいなら、やってみろ」と認めてくれ、次弟の芳雄が家業を継ぐことになりました。このとき私は父に「職業選択の自由」を与えてもらつたと感謝しています。母は反対したもの、私が10年前に高校進学を決めたときからこうなることを覚悟していたのか、強くは言いませんでした。

当時日本では高度経済成長を背景に、カメラが一般の方にも急速に普及しつつありました。ニコンやキヤノンといった現在も健在なメーカーのほか、アイレス、ミランダ、ヤシカなど約200社ものメーカーがしきりを削るカメラ大国でした。現像やプリントを行うDPE事業は、時流に乗つた成長産業でした。

万葉俱楽部 代表取締役会長

高橋弘

自のサイズもジャンボーサイズと命名しました。

19世紀に実在した巨大なアフリカゾウがこの名前だから「大きなもの」「巨大な」という意味を持つようになったそうです。後年日本ジャンボーにようかな、と考えましたが、「いやいや、夢は大

神奈新 THE KANAGAWA

2017年[平成]3月29日
仏滅

©神奈川新聞社
〒231-8445 横浜市中区
総合受付 045-227-1111 [1カ月]



箱根登山デパート出店者の親睦会で、香港や台湾を旅行した筆者
1969年

神奈川新聞 THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

3月30日[木]

大安

©神奈川新聞社 26818号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]

万葉俱楽部 代表取締役会長

高橋 弘

「日本ジャンボ」を設立する1ヶ月前の1960年11月、私は同社の事業計画書を作成しました。B5判の紙4枚に收支計画や作業工程などをまとめたものです。「収入は少なめで支出は多め」の原則にのつとり、当時25歳の若造ながら、なかなか手堅い計画を作っています。この計画書で私は、事業の柱が大量処理のできる大型自動焼き付け機であることをこの機械の特性を生かすには多くの注文を頂くことであると、既に明記しています。

多くの注文を頂くために私が考案出したアイデアが、多くの取次店を設ける箱根登山デパート出店者の親睦会で、香港や台湾を旅行した筆者 1969年

り次ぎと同じだからです。取次店数の増加は事業の拡大に直結しますから、私は飛び込み営業で取次店を開拓を重ねました。

「こんにちは」駅前のかまこ店、商店街のクリーニング店や文房具店、近隣の方が毎日のように買い物に行くスーパーまで。受け付けた。店頭宣伝物とサイズ

でいいんです。うちが集めに来て、写真が出来上がったら届けに来ますから」「へえ、そうなの」

「はい。そして取次店さんは毎月、売り上げの15%をお支払いします」仕組みを説明すると、大抵の店は引き受けてくれました。店頭宣伝物とサイズ

取次店を統々と開拓

け・引き渡し現象・焼き付けの処理を分離したので、どんな業種のお店にも取次店になつてもらうこと

一ヶ月…。これはと思うお店を見つけると、すぐにお願いに行きました。

「写真の取り次ぎ? いやあ、うちは書店だし、

見本、受け付け用の箱など

のほか、販売用のフィルムも置かせてもらいました。足元の静岡と神奈川から

取次店を増やし、約35年後には全国で約5万5千店になりました。

田原駅前の箱根登山デパートのコンコース店がありま

した。同デパートは1959年、小田原市初の百貨店として、箱根登山鉄道の路面電車の駅だった場所に開業。日本ジャンボの出店は62年4月でした。1階中央を貫くコンコースはいつも大勢が行き交っていました。商売は人の集まる場所でやるのが一番です。

同デパートの出店者は親睦会をつくっており、ジャンボも仲間に入れてもらいました。地元・小田原の老舗が多く、2代の私は年少だったと思います。親睦会では年に1、2回旅行に行きました。仙台に行つた時、地元銘菓の看板があちこちに立っているのを見て、「鈴廣かまぼこのおかみさんが『これだ』と、文字通り膝を打つたの

と、既に明記しています。

「大丈夫です。ご主人はお客様からフィルムを受け取つて、この伝票にお名前などを書いてもらうだけ

（たかはし・ひろし）



カラーフィルムの自社現像に取り組んだ頃の筆者
=1962年

神奈新 THE KANAGAWA

2017年[平成]

3月31日

赤口

©神奈川新聞社
〒231-8445 横浜市中
総合受付 045-227-1111[1カ]

東京五輪を2年後に控えた1962年、「日本ジャンボ」はカラー写真的現像・焼き付けの受け付けを開始しました。地元の静岡県では初めてでした。この頃のカラー写真フィルムは、富士写真フィルム(現富士フィルム)の「フジカラ」、小西六(後にコニカ)の「サクラカラ」、米国のイーストマン・コダックの「コダクローム」が代表的で、現像もこれら大手フィルムメーカーが一手に引き受けっていました。

その理由の一つは、白黒フィルムに比べてカラー写真フィルムが技術的に難しかったからでした。

高橋 弘

万葉俱楽部 代表取締役会長

だ場合は、その店から系列の大手メーカーに送られますが。この場合も送料・現像料は無料です。

つまり、大手フィルムメーカー数社で販売から現像まで一連の市場を独占していました。いまでは信

例えある日のほぼ同時刻、あるお客様が大手系列の写真店に、もう一人の

もう一つの理由は、フィルムの販売価格に現像料が含まれていたからです。当時フィルムを買うと、フィルムメーカー宛ての返送用

にカラー写真フィルムの現像を依頼したことがあります。

だ場合には、その店から系列の大手メーカーに送られますが。この場合も送料・現像料は無料です。

つまり、大手フィルム

メーカーは、新参者で独立

系の日本ジャンボが業績

を伸ばしているのを、白黒

フィルム時代から苦々しく

思っていたのでしょうか。こ

こぞとばかりに妨害工作を

仕掛けてきたのです。

「このままではお客様

が離れていくてしまう」

危機感を抱いた私は、思

いきつて自社でカラー写

像を行うことになりました。中堅の工業薬品メ

ーカーに頼んで、ジャンボ

ーのためにカラー用現像液

を作つてもらつたのです。

創業して3年ほどの当社に

とっては、「社運を懸けた」

といつても過言でないほど

の巨額な投資でした。

こうして自社でカラー現

像が可能になりましたが、まだ大きな問題が未解決の

まま横たわっていました。

「おたくは遅いね」と言わ

れることもあります。大手

(たかはし・ひろし)

封筒が付いていました。お客様はその封筒で、撮影済みのフィルムをメーカーに郵送します。するとメーカーが現像して送り返してくれます。送料も現像料も払う必要がありません。

街の写真店に現像を頼ん

り通っていました。

日本ジャンボは大手系列でなく独立系です。当初は自社でカラー現像をする技術を持つていなかつたので、カラー写真フィルムの現像を作つてもらつたのです。

た。いずれもすぐ、それぞれの店から大手メーカーに送られました。系列店の方には数日後に現像されて届いたのに、ジャンボには1週間以上かかりました。

これが度重なれば偶然と

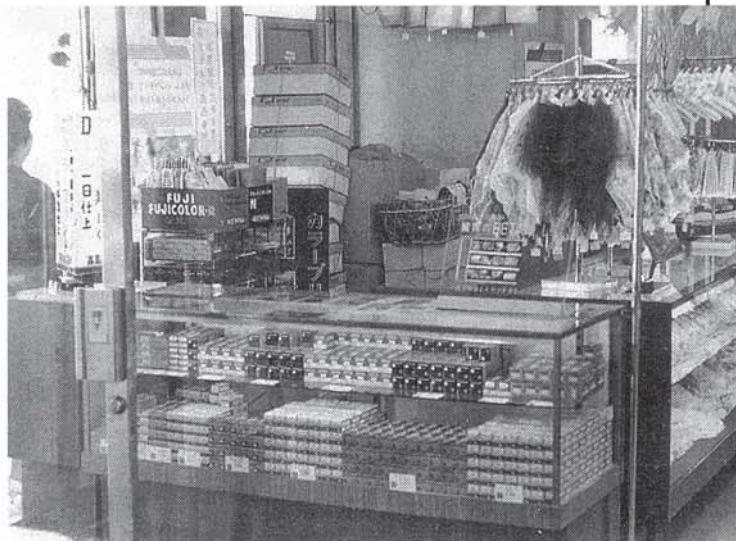
は思えません。お客様には「おたくは遅いね」と言わ

れることもあります。大手

(たかはし・ひろし)

ました。

自社でカラー現像へ



異業種の店に取次店となつてもら
い、フィルム受け付けの窓口を増
やしていった =1965年ごろ

1960年代前半は一般の方にカメラが急速に普及し、64年の東京五輪に向けカラーフィルムも広まり始めた時代でした。テレビでも、60年にカラー放送が始まり、世の中のカラー化が進みました。こうした中、カラーフィルムの現像は、わずか数社の大手フィルムメーカーが一手に握っていました。理由の一つは高度な技術が必要なので、大手やその系列店でないと困難だったからです。

そこで私の設立した「日本ジャンボー」では、カラーフィルムを工業薬品会社に作つてもらい、63年ごろから自社での現像を実現し

ました。独立系のDPE店で独自にカラー現像をしていたのは当時、当社くらいだつたと思います。白黒フィルム時代には独立系の小

ました。独立系のDPE店で独自にカラー現像をしていたのは当時、当社くらいだつたと思います。白黒フィルム時代には独立系の小

ということは、日本ジャンボーはカラーフィルムを現像しても、現像料をお客さまに請求できません。お

客さまにとっては「重払いになつてしまふからです。」

代わりに現像をしたのだから、その料金は大手から返してもらえるはずだ」という自信もありました。

高橋 弘

万葉俱楽部 代表取締役会長

大手業者の実情探る

現像料を先払いしており、フィルムメーカーに現像を頼めば無料でやつてもらえた

ます。まずは状況調査と証拠集めです。店で売れ残ったフィルムを3本ほど、メーカーに返品してみました。次のような手紙を添え、内容

次は使用期限前の未使用フィルムを返品してみましたが。「撮影の予定がなくない」の向こうが、ちらりと見えました。

イルムは、小売価格の40%が現像料です。そこで、その金額に相当する新品のフィルムを送ります」

しました……。このメーカーの現像料は40%だと判明したのです。大手寡占の力

イルムを返品してみせた。「現像料の返金には応じられません」という返事が返つてきました。なるほど、そういう理屈ですか。

「フィルム代に現像料が含まれていることがそもそも

「敵」の姿が次第に明らかになつていきました。(たかはし・ひろし)

う一つの理由は、カラーフィルムの価格にあらかじめ現像料を入れていたからです。つまり、お客様は

現像市場に風穴を開けようとした。「お送りいただいたフ

（たかはし・ひろし）

神奈川新聞 THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

4月3日[月]

先負

©神奈川新聞社 26822号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]



湯河原総合現像所（1964年設立）での
作業の様子 =1964年ごろ、湯河原町

カラーフィルムの小売価格にあらかじめ現像料が含まれているおかしな現状を打破すべく、私は大手フィルムメーカー数社を相手に闘いを挑みました。1963年、28歳の時です。

目的の一つは、未収の現像料を大手メーカーから「日本ジャンボー」に支払ってもらうことです。お客様はフィルムを買った時点で現像料をメーカーに先払いしたことになるため、メーカー系列でない日本ジヤンボーは現像料をお客さまに請求できません。それなのに当社が得るべき現像料は、メーカーにいわば横取りされているのです。

明しました。次に、未使用フィルムを返品し現像料の返金を求めたところ、「無料で現像する権利を勝手に放棄したのだから返金はできない」との返答が送りつけられました。

こんなこともあります。当社の系列店に依頼してくださった、「おたくの系列

技術を大手が“公認”

う理屈に加え、「カラーフィルムの現像には高い技術が必要です。質の良い現像料で現像する権利を勝手に放棄したのだから返金はできない」との文面が付記されていました。

それを見せてもらつた私は、こちらの技術力を見下していませんでした。私の知人が大手メーカーに対し、「おたくの系

列店でない日本ジャンボーは、20代のころで、私が20代のころ本格的な登山をしていました。ことは先に書きました。登山仲間の設楽美徳さんに、山仲間に「公認」をもらつた私は、自社の技術に大きな自信を持つとともに、「これがメーカーの姑息な言い分を負かすことができる」と思いました。メーカーは、こちらの技術力を見下していませんでした。大手メーカーは、お客さまの「奥深い

神奈川新聞

THE
KANAGAWA

2017年[平成29年]

4月4日[火]

仏滅

本日は特別紙面にて
お届けいたします

万葉俱樂部 代表取締役会長

高橋 弘

闘いの第1段階として、期限切れのフィルムをメーカーに返品し現像料の返金を求めたところ、現像料が価格の40%であることが判

たが、「待てよ、いいことを思ついたぞ!」。日本ジャンボーで現像してもらつていなかから、フィルム代に含まれていた現像料を返金してくれば」と求めたのです。

メーカーからの返答には上記の「権利を放棄したのだから返金しません」とい

うたが、「待てよ、いいことを思ついたぞ!」。日本ジャンボーで現像してもらつたらどうかな」とい訳していたからです。

現像技術に問題のないことを示して、現像料の支払を何度も内容証明郵便で要求しましたが、一向に進展しません。考えてみればそれもそうです。私の要求を受け入れたら、自分たちの商売が独占的で不公正であることを認めることになりますから。

ところで、私が20代のこ

ろ本格的な登山をしていました。これは先に書きました。登山仲間に「公認」をもらつた私は、自社の技術に大きな自信を持つとともに、「これがメーカーの姑息な言い分を負かすことができる」と思いました。メーカーは、こちらの技術力を見下していませんでした。大手メーカーは、お客さまの「奥深い

（たかはし・ひろし）



2017年[平成29年]

4月5日 [水]

大安

©神奈川新聞社 26824号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111 [1ヶ月3189円・1部120円]

万葉俱楽部 代表取締役会長

高橋弘

情を説明しました。すると、「実はかつて米国のコダック社が、あなたが指摘する日本のフィルムメーカー様、フィルム価格に現像料

公取委がメーカー側に聴取する過程で、私に何度も問い合わせの電話がかかつてきました。「相手はこう言っているが、どういう意味でしよう」「向こうの意味はこうだが、日本ジャンボー側はどうですか」。電話で説明するのは難し

い訳していました。独立占の性能をおどしめているのです。あきれました。

審査開始から半年。いよいよ審決が下るということになつて、担当係官から、んな連絡がきました。

「今回は排除措置命令を出さずに、公取委からメー

公取委は大手フィルムメーカー2社に対し、カラーフィルム価格から現像料を分離することと、日本ジャンボーが本来受け取るはずの現像料を返すことを指導してくれました。そして「現像料の支払いは、当事者同士でお願いします」。

公取委に独占を通報

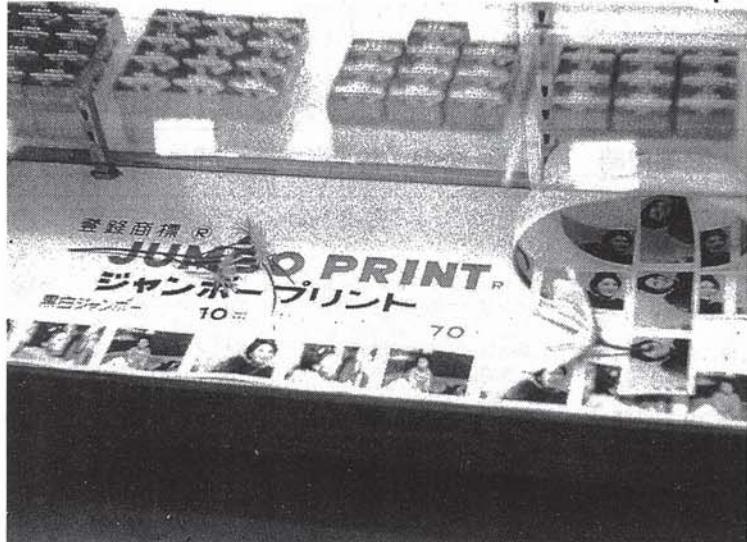
公正取引委員会(公取委)に俺の知人がいるから相談してみたら」と言われた私は、公取委への申告を思い立ちました。独占禁止法に違反する事実があると思つたら、誰でも公取委に通報し、適切な措置を求めることができるのです。

を含めて販売していくました。それに対し独占行為という判決が出て、コダツク社はフィルム代と現像料を分離したのですよ。

く、静岡県熱海市から何處も東京へ出向きました。

カードに指導をします」
穩便に解決しましよう
いう提案でした。大企業に
排除措置命令を出すと社会
的大事件になつてしまふの
で、どこから横やりが入
つたのかもしません。私
としては望む結果が得られ
れば文句はありません。害
質的な勝利です。64年秋の

私は現像本数をメカニカルに正確に記録していました。証拠品は、現像済みのフィルムから切り取つて保管していた、「ベロ」と呼ばれる先端部です。これを携え意気揚々とメーカーを訪ねたところ、意外な対応が待っていました。



当時の取次店のショーケース。登録商標
「ジャンボープリント」として「黑白ジ
ヤンボー10円」「カラージャンボー70円」
と表示されている=1965年前後、横浜市

現像料を回収すべく早速
メーカーを訪ねた私に、相
手は「△用件は承知してい
ます。日本ジヤンボーさん
で現像したカラーフィルム
は何本くらいですか」。
私は、過去数年間の現像
本数を正確に記録していま
した。また、フィルムマー
カーがどういう計算で自社
系列の現像所に現像料を払
つているのかも把握してい

そこで資料を取り出し現像本数を読み上げ始める。相手は私の言葉をささぎつて「わかりました。もう結構です」。一体どうしてなのかと思ったら、こんなことを言うのです。

避けるため私の話を途中でさえぎり、さらに「宣伝費の名目で払いたいと言つてきたのです。

には応じますが、現金で払うのは難しいのです」
やはり会社として現像料を支払った前例を残したことのないのです。「現物支給はどうでしょう」と提案され、その会社でまもなく発売されるという、現像料を分離したフィルムを請求額分もらいました。

そして、日本の大手メーカーが現像料を分離したフイルムを発売したのは、翌65年8月のことでした。この闘いは、日本ジャンボーに正当な料金を取り戻させただけでなく、写真市場の独占状態を解消し、自由で公正な企業間競争を可能にしました。結果的に、一般消費者の皆さんにも利益をもたらしたのではないかと自負しています。(たかはし・ひろこ)

大手との闘いに勝利

云長 橋 うみ

「おしおかる本数で全額お支払いします。ただし現像料としてではなく、宣伝費とさせてください」

まさかの変化球でした。

ジャンボーの現像本数を最後まで聞いて本数分の金額を払つたら、会社として「現像料を支払つた」事実が成立してしまいます。それを

は年間3%のメークーリーズ
ートを払いますから、弊社
のフィルムをどんどん売つ
てください」

プラスアルファのおまけ
までついた大勝利でした。

次に訪ねたもう1社のマ
ーカーでは、担当者がこう
いました。

「ジャンボーさんの請求

こうして、カラーフィルムの現像をめぐる大手フィルムメーカーとの闘いは、日本ジャンボーの勝利に終わりました。未収の現像料を回収し終つたのは64年10月でした。東海道新幹線が開業し、東京五輪が開催された月です。五輪は、カラーフィルムの普及を一氣

万葉俱樂部 代表取締役会長

高橋弘

神奈川新聞 THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

4月6日[木]

赤口

©神奈川新聞社 26825号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1月力3189円・1部120円]



日本ジャンボーの社員旅行で川下りを楽しむ筆者（左から2人目）＝1965年、岐阜県

そんな大金を25歳の私が持っていた理由の一つは、熱海の旅館での団体客撮影の仕事が、とても利幅が大きかったこと。もう一つは、株式投資を熱心に行っています。

最初はよく知っている力メラ業界の銘柄で控えめに売買し、やがて短波放送を聞くようになりました。平日の朝から夕方まで株式市況を放送していたのです。聞き始めるやうになると、欲が出るのか、しばらくは逆にもうからなくなりました。

の市場が終わると、証券会社が日報を持ってきてくれます。それを見ながら相場の流れを読み、月に30万株ほどの売買をしていくのです。56年にスエズ動乱が起きた際は一日で30万円も利益が出て、うれしいというより驚きました。

株式投資没頭と撤退

な機器でした。表側の面に写真や絵が印刷され、裏面に磁気によつて音声が記録されたシートを読み取る機器です。写真や絵を見ていける人に、音声で説明がなれます。私は素晴らしい機器だと大いに評価したのですが、営業的には大失敗だったそうです。

れを「一生懸命に育てよう」
そして手元の株を全て処
分し、株式投資をすっぱり
やめました。64年のことで
す。若い時にこうした経験
をしたおかげで、後年バブ
ル景気が到来した時も動じ
ずに、慎重な姿勢を崩さず
にいられたのだと思つてい
ます。(たかはし・ひろし)

万葉俱樂部代表取締役会長

高橋弘

酒販店を手伝っていた20歳の頃、55年前後でした。写真の副業により多少のまとまったお金ができ、興味が湧いたのです。

戸景気と日本経済は成長の一途でした。日経平均株価は55年に425円、56年に549円と上昇し、60年には1356円と千円の大台に乗りました。

いろいろ株を買いました。国内に当時200社以上がひしめいていたカメラメーカーの中では、キヤノンカメラ（現キヤノン）に投資家としても写真愛好家としても好感を持っていました。

日本ジャンボーを創業してからも株式投資は続けていましたが、株を始めて10年ほどたった頃のことです。一度に150万円もの損失を出してしまいました。今なら3千万円ぐらいです。ぼうぜんとした後で、こう思いました。

神奈川新聞 THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

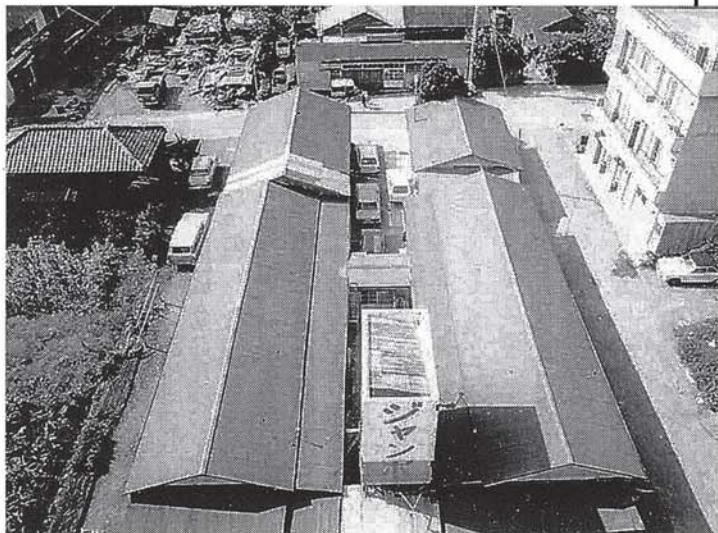
4月7日[金]

先勝

©神奈川新聞社 26826号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111〔1月1日3189円・1部120円〕

わが生

29



和菓子工場を改造し、湯河原町に新設したDPEの工場
=1964年10月

カラーフィルムをめぐる大手メーカーとの闘いに勝利した1964年10月、日本は東海道新幹線の開業、東京五輪開催と経済成長の真つただ中でした。

そんな同年同月、「日本ジャンボー」は写真DPEの生産拠点を静岡県熱海市から、隣接する神奈川の湯河原町に移しました。

60年に大型自動焼き付け機を設置するため創業と同じ年に設けた熱海市伊豆山の工場は、借地に建てたものでした。その後62年に湯河原町の門川に社宅兼工場用地を購入したのですが、こ

こには工場を建てず、同じ湯河原町の土肥に別の土地で工場を建てる金額で、別の場所に

は工業系用途の指定地域がない、大規模工場が建てられないなど、なれば含み資産がどんどん増えていきます。

企業経営において土地への投資が重要な意味を持つと気付いた私は、以後も縁があることに土地を取得しました。その際は、できるだけ建物付きの土地を選びました。湯河原の和菓子工場のように、ちょっと手を

本業を進めていきました。

(たかはし・ひろし)

湯河原に全設備移転

を購入。こちらに生産拠点となる工場「湯河原総合現像所」を設けたのです。

なぜ熱海ではなく湯河原にしたかというと、熱海市に

65年には最初に取得した土地に社員住宅を造りました。69年には、工場に隣接した土地37.6平方筋を買いました。

ところでお私は62年に初めて土地を取得して、日本の経済が「土地本位制」であることを痛感しました。

高橋弘

万葉俱楽部 代表取締役会長

土地とすぐに利用できる建物が買えるというので、購入を決めました。土地が584平方筋、工場が462平方筋という物件です。

和菓子工場を改造し、最新のDPE処理の設備を集中させました。従業員が数十人に増えているので、翌65年には最初に取得した土

資金を借りることができます。また、当時土地は必ず値上がりしていくので、借入を決めていました。土地が5

84平方筋、工場が462平方筋という物件です。さらに、地価が上昇しても帳簿上の価値は購入した金額のままで。会社としては固定資産税が少々高くなる程度で、土地を所有し

そのままです。万葉俱楽部は全国に展開していますが、こうした考

えに基づき、購入した土地にもともとあつた建物を利用できるケースが多くあります。現在本社のある小田原市

市のジャンボーナックビルもそうだし、神戸の万葉俱楽部もそうです。当社ではホテル事業も手掛けています。

万葉俱楽部は全国に展開していますが、こうした考

えに基づき、購入した土地にもともとあつた建物を利用できるケースが多くあります。現在本社のある小田原市

市のジャンボーナックビルもそうだし、神戸の万葉俱楽部もそうです。当社では

神奈川新聞

2017年[平成29年]

4月11日[火]

大安

©神奈川新聞社 26829号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]



社員旅行で訪れた黒部ダムで、社員とともに写真に納まる筆者（最後列左から3人目）=1967年、富山県

現像所へ設備を集中させた「日本ジャンボー」は60年代後半以降、取次店だけでなく工場も、地元の静岡から県外へと展開しました。ます69年、神奈川県中部の生産拠点として藤沢市善行に、1日にカラーフィルム現像3500本、プリントを4万枚できる現像所を設立しました。首都圏で急増していたカラーフィルムの現像・焼き付けの需要に応えるためでした。スーパー・マーケットだった建物を利用し、「ワールドカラー」という別会社として設立しました。71年には水戸市にカラーフィルム現像3500本、プリントを4万枚できる現像所を設立しました。首都圏で急増していたカラーフィルムの現像・焼き付けの需要に応えるためでした。スーパー・マーケットだった建物を利用し、「ワールドカラー」という別会社として設立しました。

1964年に湯河原総合現像所へ設備を集中させた「日本ジャンボー」は60年代後半以降、取次店だけでなく工場も、地元の静岡から県外へと展開しました。ます69年、神奈川県中部の生産拠点として藤沢市善行に、1日にカラーフィルム現像3500本、プリントを4万枚できる現像所を設立しました。首都圏で急増していたカラーフィルムの現像・焼き付けの需要に応えるためでした。スーパー・マーケットだった建物を利用し、「ワールドカラー」という別会社として設立しました。

導入しようと考えていたので、関東周辺のシェアを確保するのが目的でした。ところが写真の現像処理能力や会社の規模が拡大するとの反比例して、煩雑化・非効率化するものがありました。事務処理です。その最たるもののは伝票処理でした。伝票は製品処理

コンピューター導入

00」を導入しました。自動計算による伝票発行のほか、分類集計や商品群別の売り上げ日報なども作成できました。後の大手オフィスコンピューターの先駆的存在になりました。同年にアーティの入力方法

千万円もしました。当時の日本ジャンボーの年間売り上げは2億5千万円ほどでしたが、事務処理合理化のメリットとはかりに掛け、思い切って購入を決めました。富士通の担当者は「え、買うんですか？」とびっくりしていました。当時コンピューターは

DP袋を3~4枚ずつ16ミリのマイクロフィルムで撮影し、それを見て入力するようになります。放つておけば

大きな労力が無駄に費やされるばかりか、データ分析が追いつかず本業に支障が出てしまいます。

そこで68年、リコーのコンピューター「タイプ16

71年には富士通の汎用コンピューター「FACOM 230-15」を導入しました。230-15の小型機ですが、磁気ディスク装置を備え、価格は3

DP袋を3~4枚ずつ16ミリのマイクロフィルムで撮影し、それを見て入力するようになります。放つておけば大きな労力が無駄に費やされるばかりか、データ分析が追いつかず本業に支障が出てしまいます。

そこで68年、リコーのコンピューター「タイプ16

71年には富士通の汎用コンピューター「FACOM 230-15」を導入しました。230-15の小型機ですが、磁気ディスク装置を備え、価格は3

DP袋を3~4枚ずつ16ミリのマイクロフィルムで撮影し、それを見て入力するようになります。放つておけば大きな労力が無駄に費やされるばかりか、データ分析が追いつかず本業に支障が出てしまいます。

そこで68年、リコーのコンピューター「タイプ16

高橋 弘

万葉俱楽部 代表取締役会長

神奈川新聞 THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

4月12日[水]

赤口

©神奈川新聞社 26830号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]